知教労ニュース

発行　知多地方教職員労働組合（知教労）
〒475-0929 半田市仲田町1-18　Tel&Fax 0569-24-5216
HP:http://www.chikyoro.ikaduchi.com/ e-mail:chikyoro@oboe.ocn.ne.jp

逆風に負けず，教職員の権利を拡大しよう

知教労 第22回 定期大会開かれる

3月23日、知教労定期大会が開かれました。民主党から自民党へ、「右傾化」する日本の中で、教育の荒廃にどう立ち向かっていくのか真剣な論議が交わされました。

大会では岡崎書記長が、総括の中で「長年にわたる知教労の運動の成果として、知多事務所管内は、県下でも勤務時間の記録や割り振りが比較的進んでいると言われている。しかし、まだ、一部の管理職の怠慢もあり、どの学校でも統一してできているとは言えない」と、運動の現状を報告しました。組合員の中からは、「教頭が記録する形式だが、割り振りの記録が実態に即していない」「私の学校は各自が記録する形式で、記録しやすい」などの実態が述べられました。

また人事問題では、昨年から知教労が知教協や知多事務所に何度も働きかけ、グループ化を阻止しながらも、今年は第五希望までの記入が強行されたことに対し、粘り強い運動で「希望と納得の人事」を拡大することが大切であることが報告されました。職場での取り組みでは、新入組合員から知教労に加入することによって何の相談もなく希望していない部署に配属されたことを撤回できた経験なども報告されました。

総括を報告する岡崎書記長

方針論議では、岩澤委員長が学力テストの悉皆実施に対して、批判するとともに、今後、安倍政権の下でさまざまな教育への管理的圧力が強まる危険性が指摘され、知教労としてさまざまな組織と団結しながら戦う必要性が述べられました。

TPPの参加については、反対する方針に対し、もう少し論議が必要であるという意見も出されました。

大会は九割近い組合員の参加により、深まった論議がなされるとともに、新年度の予算と新しい役員を選出し終了しました。

2013年度方針を採択

3月末 退職金削減問題

愛知県の教育行政史上「最悪の事態」とも言える今回の年度途中退職金削減問題は、県下各地でさまざまな波紋を広げました。知多地区では7人の方が2月末退職を選択しましたが、結局どこも3月一か月だけの補充はできず、県教委の主張のデタラメさが浮き彫りになりました。

当初は、県民の間に「子どもを見捨てて150万円を取るのか」という早期退職者への批判的な論調がありました。しかし、愛教労が事実をもとに現場の教員の思いを訴えた結果、マスメディアも愛知県・県教委の決定のまずさを指摘する論調が主流となりました。

知多地区では2月末退職した教員を職場から排除することなく、ボランティア扱いで通常のように子どもの指導に当たっていた学校もありました。教員が簡単に補充できない存在であり、保護者も子どもも、それまで教わっていた先生に最後までやって欲しいと願っています。退職する教員ももちろん同じ気持ちをもっているのであって、そうした思いと150万円の減額を天秤にかけさせた今回の施策はまさに、「最悪の事態」に他なりません。許せないのは、数年間、子どものために勤め上げた最後のとき、本来感謝と感慨に包まれて迎えるそのときに、疑心暗鬼をもたらしたことです。愛知県と県教委を許すわけにはいきません。

忘れてならないのは、今回の問題だけではなく、この先、400万円以上の退職金削減が決まっていることです。また、人事院勧告もないままに、消費税増税の言い訳づくりのために国家公務員給与の削減の流れが、今後も企図されています。教育労働者として、誇りをもって自らの生活権を守り抜こうではありませんか。

北から南から ～支部だより～

3月というこの時期、教員の世界では、1年の一区切りがつく。しかし、次年度の人事が気になり、ホッと休まることがない。校内人事はもちろん大きな話題だが、異動の方は生活自体が変わることになり、教員人生で数回の、さらに大きな区切りとなる。

H23年度は組合の運動により、希望市町のグループ化が阻止されたが、H24年度の異動希望カードは、希望市町欄が5つとなっていた。しかも、「必ず5つ書くこと」と注意書きがあった。今回、私は希望市町を3つ書いた。カードを渡された時、校長からは「5つ書いてください」と言われたが、「5つも希望はありませんから」と言うと、それ以上何も言われなかった。知教労と教育事務所との確認で5つ書く必要はないと知っているのでできたことだ。しかし、真面目な教員の多くは、「必ず」と書かれていれば書かないワケにはいかないのではないだろうか。私の知っている限りでは、みんな5つ書いている。どこに決まったのか、希望の中でもよりよい所に決まったのか、結果は定かではないが。

私の異動先は、左から欄を読むという希望でいうところの3番目となった。校長には事前に、できれば市外へ異動したいことを告げたが、できなかった。3番目に書いた所なので仕方がないが、かなりショックを受けた。希望を聞いてもらえなかったことを職場の同僚に話すと、異動するにあたりなぜ「手」を回さなかったのかと言われた。異動するにあたっては、いろいろな「手」を使うことがあるらしい。

もしそんな「手」があったとしても、それを使える人だけが得をする人事はおかしいはず。全ての人が「希望と納得の人事」を実現できるよう、しっかり表社会で胸を張っての活動ができる組合員として頑張る決意を固めた。　(I)

みんなの目

今、半田市が新美南吉生誕100周年で熱い。命日の3月22日を皮切りにいくつものイベントが企画されている▼『ごんぎつね』をはじめ数多くの童話を残した南吉は1913年（大正二）に生まれ、1943年（昭和一八）まで29年の短い生涯を生きた。大正デモクラシーのもと少年時代を過ごし、青年期に満州事変から日中戦争、太平洋戦争に至る軍国主義へ突き進む時代を過ごした▼ラッパを拾った男がラッパ手となり、戦で手柄を立てようと戦場に向かうが、行く先々で村が荒らされているのを見て田畑をよみがえらせようと呼び掛ける。「…オトコハ　コノヒトビトガキノドクニナリマシタ　ソコデ　モウセンソウニイクノハ　ヤメニシマシタ……」『ひろったラッパ』1935年（昭和一〇）南吉21才のとき、拡大する中国戦線の報道を聞きながらこの作品を書いている。発表も刊行もされなかったため、長く人々の目に触れることはなかったが、終戦後の1948年（昭和二三）、南吉の死後5年経って初めて活字となった▼『おじいさんのランプ』『てぶくろを買いに』など、牧歌的、叙情的な作風の童話作家と評価されがちな南吉だが、実は戦前未発表の反戦メッセージの強い作品を残している▼内心の自由は誰にも侵すことはできないが、その思いを「自由に表明」できてこそ「自由」は守られていると言える。反戦が自由に言えなかった時代、若き作家が未発表作品に込めた思いを、現代の私たちは自由に表明できているだろうか。国家斉唱の口元調査、教員評価シート裏面…、内心の自由への弾圧は現代でも起きている。　（I）

データで見る教員の実態　第36回

『－1.9%，－3.2%』

今回取り上げた数字は、平成２３年度に調査された文科省の「地方教育費調査」を元にしたものです。「地方教育費」とは,「都道府県及び市町村の歳出決算額として計上された経費」のことです。それによると、教員給与は平成２１年度よりも平成２２年度の方が 1.9 %も下がっています。教育活動費については 3.2 %も下げられています。市町によって温度差はあるでしょうが，教育に必要な物を買える範囲が狭まっていることが数値で実証された形です。社会教育費はさらに大きく下げられており，－ 5.1 %です。また、予算全体の枠で見てみると，国と地方の文教費の合計は、総行政費の中で伸び率が－ 4.1 %となっています。

世代交代による減額・給与削減・講師の増加など，この資料からはどれがどのくらい反映されているのか詳しく読み取ることはできません。もっと前との比較はどうなるだろうと考えて、見出しの数字を同じ調査の 10 年前と比較してみると、人件費の中の教員の給与が 10.8 %、教育活動費は 19.4 %も下げられています。

教育の成果を上げようと思えば、財政的な支援は必要条件です。今回見出しで取り上げた数値は、耐震予算などとは関係のないお金です。しかし、耐震工事などを含んだ総額で比較してみても下がっているということから、行政がいかに教育を軽視しているのかがにじみ出ている数字ではないでしょうか。日本の未来に向って国民を伸ばしていこうという意志が見えてきません。教員に対する圧力が年を経るごとに増してきています。だが、教育再生を言うのならまず，現場に直結する予算を増額することが必要でしょう。

知ってるつもり･Q＆A

通級指導教室って？

Q 私の勤務校には、特別支援学級が設置されていますが、新たに通級指導教室が開設されるという話がありました。通級指導教室と特別支援学級はどのように区別されるのですか。また、通級指導教室には他校の児童も通ってくるのでしょうか。

A 特別支援学級は、知的、聴覚、言語等に障害のある児童生徒を対象に教育を行い、在籍は特別支援学級にあります。これに対して、通級指導教室は、言語障害、情緒障害などの障害で、比較的障害の軽い児童生徒が通常学級に在籍して各教科等の学習は主に通常の学級で行いつつ、個々の障害の状態に応じた指導（「自立活動」及び「各教科の補充指導」）を特別の指導の場で行う教育形態です。具体的には

・情緒の安定を図るための心理的不適応の改善
・相互性のあるコミュニケーション能力の向上
・運動機能の協応性や巧緻性の困難の改善
・生活のリズムや基本的な生活習慣の形成

などに取り組みます。

平成5年度から制度化され、この形態で学習している児童生徒は年々増加しています。学級ではないため「通級指導教室」とよび、そこの指導にあたる先生も「担当」と呼ぶのが一般的です。

すべての学校に設置されているわけではありませんので、必要に応じて他校から通級する児童生徒もいます。

宝探しで多くのことを学ぶ

1枚の宝の地図をたよりに宝を探す。子どもたちは心をわくわくさせて必死で探そうとします。知的好奇心をくすぐるからです。1年間の学習が終わりを迎えた3月、校内で宝探しを行いました。

宝探しをしながら、子どもたちは、今までの経験と知識と、そして、それらを統合して活用する力をフルに発揮しなければなりません。

平面としての記憶、立面としての記憶、ヒントをたよりに、隠された暗号を探します。

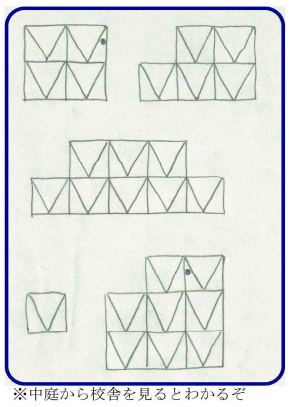
本のある部屋（図書室）と同じ字（図）で始まる部屋をさがす。「と」で考えていては「図工室」は見つかりません。

暗号を見つけ出したら解かねばなりません。「『」「』」に気付けば並べ替えは、簡単になります。

２０１３宝はどこだ

君たちには、北山小の中のあちこちにかくされている暗号を見つけ、暗号を解いてもらいたい。解けたら担任の先生に報告してもらいたい。そうすれば、きっとすばらしいお宝をゲットできるだろう。君たちの頑張りに期待する。

宝のガイド①



※中庭から校舎を見るとわかるぞ
※●に暗号がかくされている。

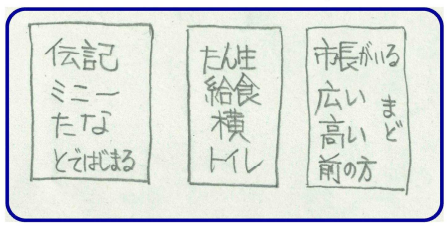
スペシャルガイド

わ	っ	き	い	は	ぜ	こ	か	あ	ど
⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

ば	あ	と	ん	は	せ	こ	い	よ	ね
⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

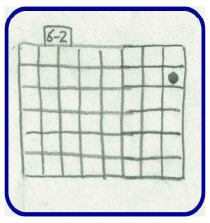
※ノーヒントです。
※ふふふふ。

宝のガイド②



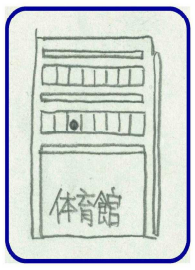
※３つの暗号がかくされている。
※左ー室　中ールーム　右ー室
※給食はおいしいね。
※どこに市長がいるんでしょう。高いところってどこかな。

宝のガイド③



※学校に着くと
必ず行くところ

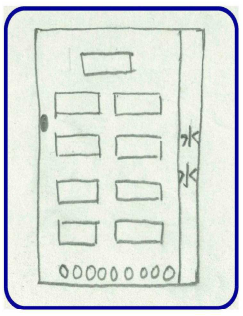
宝のガイド④　上



下

※どこから見ると
わかるかな
※まーどうにか
わかるかな。
※体育館が見えるというのがヒントだねえ。

宝のガイド⑤



※水は水道かあ。
※どこの部屋なんだろう。
※水道のある部屋かあ。
※本のある部屋と
同じ字で始まるね。
※わかったあ。
機械があるね。
動かすと
うるさいよ。

「②③⓪
⑧⑨④
⑦①⑥
③③⑤」

宝の地図は、グループに1枚です。協力して探さなければ、宝にたどり着くことはできません。この1年間の学級経営が試されます。リーダーの資質が試されることになります。

今までの経験、学習で獲得した知識、いろいろなものを統合させて考えていく力、協力して作業していく気持ちとそれを支える人間関係、グループをまとめ上げ方向性をつけるリーダーシップなど一つでもかけると宝にたどり着けません。こういったものの総体が「生きて働く力」＝「学力」の一つであると思います。結果はやはりクレバーなリーダーのいたグループが一番早く見つけました。

少しばかりうるさくなるので、根回しは必要ですが、問題を考える教師もクレバーになります。にやにやしながらどのグループがクリアするか待っているのは楽しいですよ。